

序

「心電図について解説した手軽ないい本はありますか？」という質問をよく受ける。医学生やレジデントからが多いが、臨床の第一線で働いている一般内科医からのこともある。医学書を取り扱っている書店に足を運ぶと、数多くの心電図に関する書籍が所狭しと並べられている。いくつかの書籍を手にとって開いてみると、心電図を学問としてとらえ理論的に詳しく解説した書籍もあれば、心電図波形を数多く載せてその読み方をきめ細かく解説をした書籍などさまざまである。同じような企画で出版された書籍を比べてみると、不思議なことに書かれている内容が執筆者によって異なることに気づく。それは波形の解釈から不整脈の診断まで多岐にわたる。不整脈の分類のしかた一つにしても、一定の型にはまった記述がされておらず、初心者にとってはどうのように解釈したらよいのか戸惑ってしまうかもしれない。加えて、まれな現象に重点を置いて記載していることがよくあり、心電図の理解を一層難しくしているように思われる。

そこで、このような問題点や不安を払拭すべく、初心者の目線でみた分かりやすい心電図の入門書を発行することを羊土社と企画した。専門医の間で一定の見解が得られていないような事柄はすべて除き、また学問的な事柄は心電図を理解するうえで必要なことのみにとどめ、診療するうえでこれだけは知っていてほしい内容のみを記載することにした。書き出しとして、まずは心臓の仕組みと電気の流れ方を説明し、心電図のとり方の基本から解説することにした。そのうえで心電図の読み方を解説した。理解が難しいとされる不整脈については、心電図に加えて心臓内で起こる電気的異常をシェーマで併せて示し、エコーや内視鏡と同じように視覚的にも理解できるように工夫した。心電図異常を示す疾患・症候群については、典型的な心電図のみを載せることにした。また、専門用語はすべて日本語で記載し、頻用されることが多い英字略語については併記することにした。加えて、持ち運びやすいように書籍の大きさをA5版とし、価格も低く抑えている。このようにして、時代のニーズに合った心電図の本ができ上がったと思っている。

本書を活用することで心電図に対するアレルギーがなくなり、心電図を自ら記録して読むことが好きになるきっかけにしていただければ、企画した者として本望である。

2011年6月

東邦大学 教授
池田隆徳

謹告

本書に記載されている診断法・治療法に関しては、発行時点における最新の情報に基づき、正確を期するよう、著者ならびに出版社はそれぞれ最善の努力を払っております。しかし、医学、医療の進歩により、記載された内容が正確かつ完全ではなくなる場合もございます。

したがって、実際の診断法・治療法で、熟知していない、あるいは汎用されていない新薬をはじめとする医薬品の使用、検査の実施および判読にあたっては、まず医薬品添付文書や機器および試薬の説明書で確認され、また診療技術に関しては十分考慮されたうえで、常に細心の注意を払われるようお願いいたします。

本書記載の診断法・治療法・医薬品・検査法・疾患への適応などが、その後の医学研究ならびに医療の進歩により本書発行後に変更された場合、その診断法・治療法・医薬品・検査法・疾患への適応などによる不測の事故に対して、著者ならびに出版社はその責を負いかねますのでご了承ください。